

札幌の農業と街マップ

良質な畜産物を育む、緑溢れる都市環境のために

1. 札幌市の自然

札幌市は石狩平野の南西部にあって、東西42.3km、南北45.4km、市域面積1,121.26km²を有しています。地形的には南西部に位置する緑豊かな山岳部が市域の大半を占め、主な都市活動は、市内を貫流する豊平川によって形成された扇状地およびこれに連なる石狩低地帯、並びに南東の月寒台地、野幌丘陵を中心として展開されています。地質はおおむね第4紀の沖積層で、砂・小石・粘土からなる豊平川（札幌）扇状地は良好な地盤を備えています。石狩低地帯は埴土および泥炭からなっています。土壌は、山地は火成岩およびその残積土または崩壊土が大部分を占め、台地は火山灰に由来する洪積土壌で、埴土または埴壤土です。平野部は河川流域の沖積土地帯および石狩川流域低平部に広く分布する泥炭地帯や、河口部に分布する砂土地帯に大別され、いずれも農業に適しますが、全般的に排水不良地が多いのが特徴です。気候的には日本海型気候に属し、大陸の気候に左右されることが多く、夏は一般にさわやかで、冬は積雪寒冷を特徴としています。また、農耕期（4～9月）の平均気温は17℃前後であり、農耕に適しています。

2. 札幌市の農業の経緯

札幌市は、明治の開拓初期から屯田兵が入り、水田や畑の開墾が盛んに行われるとともに、明治9年（1876年）には北海道大学の前身である札幌農学校が設置されるなど、北方農業の技術供給の拠点として、常に北海道の農業において重要な役割を担ってきました。戦後、札幌市は近隣市町村を合併しながら本道の中心都市として急速に発展してきたため、都市基盤の整備が急務となり、これらの用地として農地などの転用が行われました。この結果、農地、農家戸数の減少が進みましたが、大都市の有利性を生かし、野菜や花きなどの集約的な栽培、中小家畜などの飼育を中心とする農業への転換を図り、市民に対する新鮮かつ良質な農畜産物の供給という重要な役割を果たしています。

3. 札幌市の主な農業

(1) 野菜

野菜生産は、札幌市の農業の基幹となるもので、多様な作物が栽培され、市場や農協などを通じて市内のほか道外にも出荷されています。特に生産量が多い作物は、次のとおりです。

① **タマネギ**～作付面積は約270ha
「札幌黄」「さつおう」「F1品種」

日本での食用としては、明治4年（1871年）に札幌で試験栽培されたのが最初とされ、後に札幌農学校において本格的な生産が開始されました。

《**主な生産地**》東区の丘珠地区から北区篠路地区にかけての伏古川流域と白石区東米里地区の旧豊平川流域

② **レタス**～作付面積は約40ha

「玉レタス」「リーフレタス」「サニーレタス」

《**主な生産地**》北区太平・篠路・茨戸地区、東区、厚別区 他

③ **小松菜**～作付面積は約12ha

昭和62年（1987年）から東区丘珠・東雁来地区で生産が始まり、現在は南区藤野・篠舞地区や西区小別沢地区でも生産されており道内でも有数の産地となっています。

④ **ほうれん草**～作付面積は約6ha

「ポーラスター」

《**主な生産地**》清田区真栄・有明地区、南区滝野・常盤地区

⑤ **「大浜みやこかぼちゃ」**

～作付面積は約12ha

《**主な生産地**》手稲区手稲山口地区

⑥ **「サッポロスイカ（山口スイカ）」**

～作付面積は約7ha

《**主な生産地**》手稲区手稲山口地区

(2) 果樹

栽培面積約26ha 「サクランボ」「リンゴ」「モモ」「ウメ」「ブドウ」「プラム」「ブルーベリー」「ブルーベリー」など多品目

《**主な生産地**》南区藤野地区から定山溪地区までの豊平川沿い。南区や東区中沼地区では、ブルーベリー等の小果樹の栽培も行われています。

(3) 花き

① **切花**～夏季冷涼な気候を生かした栽培で都府県にも出荷

「バラ」「カーネーション」「ワレモコウ」など

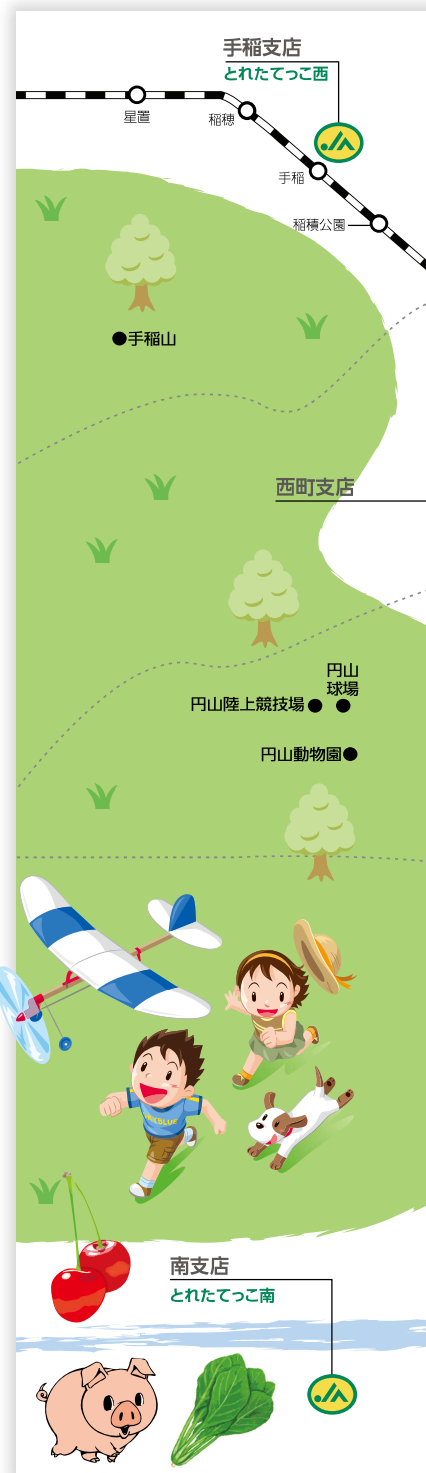
② **鉢花**～「シクラメン」「ペゴニア」「ポインセチア」など

《**主な生産地**》清田区真栄・有明地区や手稲区手稲山口地区など

(4) 水稲

作付品種は良質・良食味米「ななつぼし」を主力品種として「ゆめぴりか」、「きたくりん」などが栽培されています。

《**主な生産地**》北区篠路・茨戸地区、南区藤野・篠舞・小金湯地区を中心に生産されています。



(5) 畑作物

主に小麦が北区方面を中心に作付けされており、市内の作付面積は約90haです。品種は、秋まき小麦は「きたほなみ」が、春まき小麦は「春よ恋」が主に作付けされています。そのほか、そばの栽培を行っている生産者が数件います。

(6) 畜産

畜産業は都市化に伴う周辺住宅地との環境問題、生産者の高齢化・後継者不足、畜産物の輸入増加による価格低迷などにより、ここ20年間で飼養戸数・頭数とも大幅に減少しています。

①酪農（8戸 飼養頭数 約630頭）

牧草を中心とした資料作物の作付面積は、市内の全耕地面積の3割近くを占めています。

《主な生産地》 北区篠路・屯田地区、東区中沼地区・東雁来地区、白石区東米里地区、手稲区手稲前田地区 他

②養豚（2戸 飼養頭数 約880頭）

特徴ある良質な豚肉の生産をしています。

③養鶏（100羽以上飼養する農家は5戸、採卵鶏の飼育羽数 約4,400羽）

特徴ある良質な鶏卵生産をしています。

*参考資料：令和7年度版 さっぽろの農業（札幌市経済観光局農政部）

